

足立区、劇場経営撤退へ

検討部会が結論「3セク解散、民間運営に」

足立区立劇場「シアター1010」を運営する区の第3セクター「足立コミュニティ・アーツ(ACA)」の見直しを議論してきた区公共サービス改革等推進委員会の検討部会は、「区は経営から撤退すべきだ」とする結論をまとめた。ACAは同区が過半数の株を保有しており、区が撤退方針を固めたことで、ACAが解散する可能性が強まった。

検討部会がまとめた報告書案は、2003年に指定管理者制度が導入され、区立施設運営の門戸が民間に開かれたことを踏まえ、「3セクは必ずしも必要ではなくなった」と指摘。その上で、1 全国的にも公立劇場の民間運営は増えており、シアター1010の指定管理者の公募にも民間から多数応募があった 2 資金調達などの面でも3セクが民間より有利な面はない などの理由から、「ACAの存在意義や必要性は失われている」と結論づけた。

また、区の撤退後については、ACAの「解散・清算」を提案。2009年度以降は、指定管理者の審査でACAに次いで2位となった民間事業者を繰り上げ指定するのが妥当とした。一方、報告書案は、抜本的な組織の見直しを検討してこなかった区の姿勢を、「深く反省すべき」と指摘した。

昨年12月から今年1月にかけて行われた次期指定管理者の選定を巡っては、民間から5社の応募がありながら、ACAを指定したことに批判が出ていた。さらに、選定期間中に選考委員だった区の幹部とACA役員が接触した問題などが発覚したことから、区は6月から、検討部会で撤退を含め見直しを議論してきた。

(2008年7月31日 読売新聞)